

暑さ寒さも彼岸まで…朝夕の静けさに、少し秋らしさを感じるようになりましたね。

品格が育つ

始業式から2週間が経ったころ。雑草が咲き誇る（生い茂るがあっているかも）グラウンドで、朝の草取りに勤しんでいたところ、5年生のあきらさん（仮名）がそっと近寄ってきて、私に話しかけながら、一緒に草を引いてくれました。手際が良く、数分で両手に抱えられないほどの草を引いて一言。

「校長先生、いつもありがとうございます」

なんと、いや、こっちの方こそ心からのありがとうございますよ。

そのさわやかさ、気持ちのよさに、私はじわっと心が温くなる思いをしました。



「品格」という言葉が、頭の中に浮かびました。

あきらさんのその行動には、確かな「品格」が感じられました。では、あきらさんは生まれつきその「品格」を備えていたのでしょうか。

私は、その「品格」は、これまでの学びの中で育ち、身についたものだと思うのです。

では、どうすれば「品格」が育つのか。

ある雑誌を読んでいた時に、次のような文章に出会いました。

「己に足りないものに気づき、それを自覚することを重ねる。他者の行動に注意を払い、そのよさを教え認めることを重ねる。品格というものはそうして育っていくものではないか」

他者や社会とのかかわりの中で、自己をじっくりと振り返ることによる気づきを意識化し、よりよい自分になりたいと希求した先にあるものが、品格。自己を律し、他者を尊重しようとする生き方を、真摯に追い求めるその姿に、品格の育ちがあると、私は思います。

昨今の社会では、自己の権利ばかりを主張する場面が多くみられます。自由だ～！という一発ギャグが一時はやったことを思い出します。（古いですか??）

この自由という言葉をつくったのは、かの有名な福沢諭吉氏です。旧一万円札の方ですね。もともとの英語は Liberty。その訳語が自由という訳です。ただ、自由と訳するとき、その意味を言い尽くせていないと感じた福沢諭吉氏は、次の言葉を付け足したとのこと。



「決して我儘放蕩（わがままほうとう）の趣意に非ず」

非常に示唆的です。つい、自由と聞くと何をしてもいい、自分勝手のイメージが付きまっています。自由な時はいつですか、というアンケートで一番多い場面は、お休み。自分一人になるときだということも、うなずけます。

さらに諭吉氏は、これからの時代は、互いに互いの自由を尊重し合う社会でなければならぬと考え、書の右側に押す開防印（かんぼういん）には、次のように記したそうです。

「自由は不自由の中に在り」

なるほど、納得。

「品格」は一日にしてならず。やはり、利他に尽くしながら、自分を磨くという、本当になりたい自分になるための努力の積み重ねが大切なのだと、あきらさんから私は学びました。

また、「なりたい自分」をメッケ。

※追記です。

この出来事後、続々と5年生の子どもたちが草取りに、完全ボランティアで参加してくれています。もちろん、縦割り班の子どもたちも、主体的に草取りを頑張っています。

本当にうれしい！今日も、学校に来てよかったと思う一コマです。

学校生活9月号にも掲載しています。ぜひご覧ください。

<https://www.kumamoto-kmm.ed.jp/sch/e/nirenokies/gakkouseikatu/9gatu.html>

